

新未来ビジョン・フォーラム第2回情報交換会（要旨）

日 時：令和5年3月22日（水）13:00～15:00

場 所：オンライン開催

議 事：

1. 開会
2. 宮木フェロー・渡邊フェローによる発表
3. 意見交換
4. 閉会

まず宮木フェローから、ライフデザインに関する研究成果を踏まえた発表があり、続いて渡邊フェローから、日本を含む世界で定期的に実施している消費者動向調査について発表があった。その後の意見交換の内容は概ね以下のとおりであった。

（ライフデザインを描くことや幸せを感じること等について）

- ・ライフデザインを描くことが難しいと感じる人へのサポートが重要であり、その一つとして、消費者と直接関わる機会が多い事業者等によるサポートもあり得るのではないか等の意見があった。
- ・ライフデザインを描いた後、現状との間にギャップが生じることもあり得るが、現状に合わせてライフデザインを柔軟に変化させることで、より幸せを感じられるようになるのではないか等の意見があった。
- ・ウェルビーイングのためには、幸せを感じるためのスキルが重要であり、具体的には、日々の楽しさ・面白さ・ワクワクを感じるスキル、助ける・助けられるスキル等が求められるが、助け合いが必要なことや助けを求めてよいのだということ等を、学校で若年者に教育するだけでなく、全世代に対して教育していくことが重要になってくるのではないか等の意見があった。

（今後の社会の在り方や本フォーラムの今後の展望等について）

- ・少子化等によって人と人のつながりが希薄化することに伴い、消費者被害拡大等の消費生活に係る懸念が生まれる可能性があるが、それを払拭するための方策の一つとして、特に消費者と直接関わる機会の多い事業者の重要性が今後は増すのではないか等の意見があった。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大やSDGsの普及等に関連して、近年、働き方や企業の経営方針が変化し、従業員や顧客の幸福度や満足度の向上に努める企業が増えており、こうした変化は誰一人取り残さない社会の形成においても大切ではないか等の意見があった。
- ・幸せを感じるための1つの要素として、「つながり」が重要。そのためには、勝ち負けを競うのではなく、多様な価値を組み合わせて新しいものを創っていくことを目指す必要があり、その際には、自分とは異なるものを受け入れられる寛容性が重要ではないか等の意見があった。

- ・本フォーラムのフェローは、それぞれ別のフィールドや視点を持っており多様であるが、本フォーラムで意見交換を行い、各フェローが自分にはない考え方を持ち帰ることにより、様々な良い効果があるのではないか等の意見があった。

(以上)